

承認番号	2718
研究課題名	ステロイド性骨粗鬆症に対するテリパラチド週1回製剤の有用性の検討
研究の意義・目的	ステロイドの投与によって発症するステロイド性骨粗鬆症（GOI）の患者数は原発性骨粗鬆症の患者数に次いで多いとされています。本邦ではビスホスホネート製剤が第一選択薬ですが、日本人でもテリパラチド週1回製剤の有用性がアレンドロネートと劣っていない事が判明すれば、GOI治療の選択肢が増え患者様の利益につながります。
研究期間	2016年05月30日 ～2018年07月31日
研究対象者の範囲	上記の期間内に大阪市立大学医学部附属病院の整形外科でステロイド性骨粗鬆症治療のため受診された患者さまが対象です。
利用又は提供する試料・情報の項目	ステロイド性骨粗鬆症治療にかかわる情報を診療録から抽出し、研究に利用させて頂きます。身長、体重、既往歴、併存症、合併症などの背景因子や血液検査、X線検査や超音波検査などの画像情報がそれに含まれます。
利用者の範囲	得られた情報は共同研究機関に試料・情報を提供します。これには、あなたの性別、生年月日も含まれますが、カルテ番号、氏名、住所、電話番号など、個人を特定できる情報は含まれません。情報の集計に際してはプライバシー保護のため、個人が特定できない情報に置き換えて対応し、結果を公表する場合も個人名が出ることはありません。
研究機関の情報	ステロイド性骨粗鬆症研究会（GIOP研究会） 独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター 副院長 大島 久二 近畿大学医学部奈良病院 整形外科・リウマチ科 教授 宗圓 聡 産業医科大学 第一内科学講座 教授 田中 良哉 医療法人IR0名古屋膠原病リウマチ痛風クリニック 顧問 田中 郁子
代表施設のURL	http://www.tower-go.net
試料・情報を公表する方法	国内外のリウマチ性疾患領域を中心とした学術集会や学術誌にて報告することで情報を公開します。この時、個人情報特定される事はありません。
試料・情報の提供方法	この調査により発生するあなたの試料・情報は、個人情報の保護に関する法律を遵守し、第三者に漏れないように取扱いを慎重に行います。調査終了後は、本試験独自の番号を用いて匿名化され、その集計と解析に必要なデータのみが本調査の事務局であるクオールRD株式会社に送られ、厳重に保管されます。
試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター 副院長 大島 久二
拒否機会の保障	本研究の対象者の方は、問い合わせ先に連絡することによっていつでも本研究への参加を拒否することができます。また、研究への参加を拒否されても、診療に関する不利益等を受けることは一切ありません。
拒否を受け付ける方法	大阪市立大学医学部附属病院 整形外科 住所：545-8586 大阪市阿倍野区旭町1-5-7 電話：06-6645-2121 研究代表者：乾健太郎